

八戸工業大学ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、 アドミッション・ポリシー（令和3年度以前入学者）

改正 令和 2年 2月20日 教授会

■八戸工業大学ディプロマ・ポリシー

八戸工業大学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げています。これは、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。本学は、この理念を踏まえた教育目標に基づく所定の教育課程を修め、以下の資質・能力が身についた学生に学士の学位を授与します。

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
- 3) 専門分野の基礎原理の理解と高度応用展開力
- 4) 地域社会への関心をもちグローバルな視野で物事を考える姿勢

■工学部ディプロマ・ポリシー

工学部では、所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します。

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とする工学の素養
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
- 3) 工学基礎原理の理解とそれらの高度応用展開力
- 4) 地域社会への関心をもつとともにグローバルな視野で物事を考えることができる力

□機械工学科ディプロマ・ポリシー

機械工学科では、所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心をもつとともに、地球的視野を身に付けていること。
 - (A-1) 自然、環境、社会、人間など、幅広い分野に基礎知識と関心を持つ。
 - (A-2) 技術者としての活動が社会、衛生、安全、法及び文化に及ぼす影響について、知識と責任感を持つ。
 - (A-3) 地域社会へ関心を持つとともに、国際的な視野を持ち、社会に貢献できる。
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識をもつとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できること。
 - (B-1) 数学の基礎知識を持ち、それを機械工学に応用できる。
 - (B-2) 物理学の基礎知識を持ち、それを機械工学に応用できる。
 - (B-3) 情報技術の基礎知識を持ち、それを機械技術者の実務に応用できる。
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての素養を身に付けていること。
 - (C-1) 複合的なエンジニアリング活動に関して、技術文書の作成に必要な日本語による記述力と、専門分野の異なる相手に対して技術的な説明をした際、理解を得られるプレゼンテーション能力を持つ。
 - (C-2) 英語の文書を機械技術者の実務に利用するための基礎的素養を持つ。
 - (D) エンジニアリング問題解決に応用するための機械工学の知識を持っていること。
 - (D-1) 材料力学と機械力学の知識を持ち、それを問題解決に応用できる。
 - (D-2) 熱および流体力学の知識を持ち、それを問題解決に応用できる。
 - (D-3) 計測と制御の知識を持ち、それを問題解決に応用できる。
 - (D-4) 材料、工作法、製図法および機械設計の知識を持ち、それを問題解決に応用できる。
 - (E) 複合的なエンジニアリング問題を解決する実務遂行能力の素養を身に付けていること。
 - (E-1) 機械システムの振る舞いを観察し、考察、評価できる。
 - (E-2) 機械装置と製造工程の開発、設計、管理を行う基礎的素養を持つ。(デザイン能力)
 - (E-3) 機械の設計、開発において情報技術を有効に利用できる。

- (E-4) 最新技術情報を収集、分析でき、技術の変化に対応し、生涯にわたって自主的に学習する必要性を認識し、取り組むことができる。
- (E-5) チームのメンバー又はリーダーとして、スケジュール、資料、資材などのリソースを管理して、課題を完遂する姿勢を持つ。
- (E-6) 多様性のあるチームのメンバー又はリーダーとして、問題の解決やプロジェクトの中での自らの役割と責任を理解できる。

自動車工学コースでは、さらに次の資質能力を求めます。

- (F) 自動車整備士としての実務遂行能力の素養を身に付けていること。
- (F-1) 二級ガソリン自動車整備士としての自動車の構造および整備に関する知識を持ち、自動車整備の実務を遂行できる。
- (F-2) 高度化する自動車技術の進展に対応し、自動車整備の実務に応用できる。

□電気電子工学科ディプロマ・ポリシー

電気電子工学科では、所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心を持つとともに、地球的視野を身につけていること。
- (A-1) 社会観、経済観、歴史観、健康管理意識など、技術者としての教養と思考力を備え、地球的視野に立って行動できる。
- (A-2) 技術者としての良識および倫理観を備え、自立した技術者として責任ある判断と行動ができる。
- (A-3) 地域の産業に関心を持ち、地域社会が抱える技術課題の解決に向けた取り組みができる。
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識を持つとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できること。
- (B-1) 電気電子工学分野における技術者として必要な基礎数学力を身につけ応用できる。
- (B-2) 基礎的な物理法則や化学法則を理解しており、自然科学的な知識を有し、課題の解決に向け応用できる。
- (B-3) 情報技術に関する基礎知識を身につけ、社会活動において必要なワードプロセッサの操作能力、表計算処理能力さらにはプレゼンテーション資料の作成能力などコンピュータ情報機器の基本的な操作ができる。
- (C) コミュニケーション能力と、国際人としての素養を身につけていること。
- (C-1) 社会的および技術的に通用する技術報告書、業務日誌などの日本語文書を作成できる。また、与えられた課題について議論を行え、さらに課題解決・提案・報告などのプレゼンテーションができる。
- (C-2) 英語による基礎的なコミュニケーション能力を有し、かつ英語による製品仕様書、機器取扱説明書あるいは技術資料などの読解ができる。また、その語学力を基盤として、国際交流・協調に活かすことができる。
- (C-3) 電気電子工学分野に関わる国内外の動向に関心を持ち、また、国際的視野に立って技術課題の解決に向けた取り組みができる。
- (D) 専門分野における知識を身につけ、課題の解決に向け応用できること。
- (D-1) 電気電子工学分野における技術者として備えるべき基礎知識を有し、課題の解決に向け応用できる。
- (D-2) 電気電子工学に関連する専門知識を有し、課題の解決に向け応用できる。
- (E) 課題を発見し、業務を計画・遂行できる能力を身につけていること。
- (E-1) 業務デザイン能力を備え、与えられた課題あるいは社会の要求に対して業務を計画・遂行し、課題の解決に向け応用できる。また、複数の技術者とチームを組んで積極的に協議し、リーダーもしくはメンバーとしての役割分担を通して、協働の中で役割を果たして問題解決を図ることができる。
- (E-2) 取り組む技術課題に対して常に自主的、継続的に学習し、問題点を見つけ、改善を図るための一連の行動ができる。
- (E-3) 与えられた制約の下で、計画的に仕事を遂行することができる。

□システム情報工学科ディプロマ・ポリシー

システム情報工学科の学習・教育到達目標に基づく所定の教育課程を修め、情報通信技術（ICT）および情報関連分野における以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心をもつとともに、地球的視野を身につけている。
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識をもつとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できる。
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての素養を身につけている。
- (D) 情報技術の専門知識と応用展開能力を身につけ、社会の課題に対して実践的に対応できる。
- (E) 自ら積極的に学ぶ意欲および時代変化に継続的に対処する能力をもち、情報技術の融合によって課題解決できる。

□生命環境科学科ディプロマ・ポリシー

生命環境科学科では、所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します。

- (A) 複数の視点から物事を観察し、人間活動と自然環境の関わりを理解できる能力を有する。
- (B) 自然科学および工学の基礎知識を習得し、それらを活用できる能力を有する。
- (C) 論理的な表現力・読解力・理解力を持ち、それを外国語でも実践できる能力を有する。
- (D) 生命科学・食品科学・環境化学に関する基礎知識およびその高度応用展開能力を有する。
- (E) 多分野の知識を活用し、能動的に環境調和型社会に応用できる能力を有する。
- (F) 計画的に仕事を進め、自主的に学習する能力を有する。

□土木建築工学科ディプロマ・ポリシー

土木建築工学科では、所定の年限在学し、学科の教育理念や目的を達成するために開設した授業科目を履修して、卒業に必要な単位数を修得し、以下の学科の学習・教育目標に示された資質・能力を身につけたと認められるものに学士（工学）の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心をもつとともに、地球的視野を身に付けた技術者
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識を持つとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できる技術者
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての素養を身に付けた技術者
- (D) 基本的な専門知識と応用・展開の素養を身につけた技術者
- (E) デザイン能力・チームワーク力を備え、自ら積極的に学んで行動し、実社会において実務に対処しうる技術者
- (F) 北東北地域の土木・建築技術に関心を持つとともに、国際的視野も合わせ持った技術者

■感性デザイン学部ディプロマ・ポリシー

感性デザイン学部では、所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（感性デザイン）」の学位を授与します。

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とするデザインの素養
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
- 3) デザインの諸原理の理解とそれらの応用・展開力
- 4) 公共的問題や地域社会が抱える問題を自ら発見し、デザイン手法を用いて解決する力
- 5) 多文化、異文化を理解し、グローバルな視点でモノを考えることができ、それを課題解決に活かす力

□創生デザイン学科ディプロマ・ポリシー

創生デザイン学科では、地域資源にさまざまな角度から光を当て、デザイン手法を活かして地域ブランド創生など地域を生き生きと輝かせるデザイン活動に携わる人材を育成することを教育理念としています。

本学科ではこの理念を踏まえた教育目標に基づく所定の教育課程を修め、以下の資質・能力が身についた学生に学士（感性デザイン）の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識や倫理観、地域社会への関心および地球的視野
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識とそれらを活用する力
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての素養
- (D) 社会における課題を見出し、状況に応じたデザイン手法を展開できる能力
- (E) 社会における資源活用や課題解決を遂行するためのデザイン手法
- (F) デザイン活動に必要なデザイン基礎能力
- (G) 産業、文化、歴史、福祉健康、自然科学などの幅広い知識
- (H) ローカルとグローバルの二つの視点に立って、多様性を尊重しながら、他者とともにデザイン活動を遂行することができる能力
- (I) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力と、時代のニーズをとらえて新しい価値を創造できる実現力

■八戸工業大学カリキュラム・ポリシー

八戸工業大学は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを、高校教育から大学教育に円滑に移行させ、専門への関心を誘導するための「導入転換科目」、人間環境や社会に対して多面的な視野から物事を捉え、総合的な判断ができる力を養う「総合教養科目」、工学の学問に必要な自然科学分野の基礎を幅広く養う「工学基礎科目」（工学部のみ）、各分野における基礎原理、実践的な応用能力を養う「専門科目」で編成します。

2) 総合的な人間力を養成する教育の実施

総合教養科目においては、その分野を人間科学分野、国際コミュニケーション分野、体育科学分野、および総合学際分野で構成し、学部・学科を問わないリベラルアーツを展開します。また導入転換科目においては、キャリアデザイン科目を配置し、社会と接点のある教育を実施します。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。専門科目においても、課題解決型学習（PBL）、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、並びに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

3) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育の実施

各学部、各学科の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の繰り返し学習を取り入れた授業などを展開し、これにより、専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

4) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力を養成する教育の実施

実践的な力を養うために、少人数ゼミナール、実験・演習・実習科目を重点的に配置します。自ら考えて纏めたことを発表、表現する授業や、体験・気づき・省察サイクルを取り入れた授業を展開します。また身につけた専門知識やスキルを統合し、問題の解決と新たな価値の創造に繋がっていく能力や姿勢を育成するために、「卒業研究」、または「卒業制作・論文」を全学必修とします。

5) 地域社会との繋がりを重視した教育の実施

地域社会が抱える課題の解決のために、地域と連携したPBLやアクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、地域社会への関心をもって物事を考えることができる能力を養成します。

6) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育の実施

学部・学科を問わない総合教養科目を中心に、専門科目においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成します。

学修成果の達成度は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力に基づいて明確化した複数の修得因子によって評価し、学生が自ら確認できるよう配慮しています。

■工学部カリキュラム・ポリシー

工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを、「導入転換科目」、「総合教養科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」で編成します。

2) 総合的な人間力を養成する教育を実施します

総合教養科目においては、学科を問わないリベラルアーツを展開し多面的に物事を考える素養を養います。また導入転換科目においては、社会と接点のある教育を実施し、キャリアデザイン科目を充実させます。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。専門科目においても、PBL、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、並びに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

3) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します

工学の学問に必要な「工学基礎科目」を配置し、自然科学分野の基礎を幅広く養います。また、工学部各学科の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門

基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の繰り返し学習を取り入れた授業などを展開し、これにより、専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

- 4) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力をもたせる教育を実施します
高度な応用展開力を養うために、実践的な科目や実験・演習・実習科目を重点的に配置します。授業の中では、論理的な思考を通じて自ら考え纏めたことを発表、表現する授業を展開します。また身につけた複数の専門知識やスキルを統合し、問題の解決力と継続的に学習する力やプロジェクトマネジメント力を育成するために、「卒業研究」を必修とします。
- 5) 地域社会との繋がりを重視した教育を実施します
地域社会が抱える課題の解決のために、地域と連携したPBLやアクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、地域社会への関心をもって物事を考えることができる能力を養成します。
- 6) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します
学科を問わない総合教養科目を中心に、専門科目においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、グローバルな視野で物事を考えることができる素養を養成します。

□機械工学科カリキュラム・ポリシー

機械工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

- (A) 社会人としての良識と倫理観、地域と国際的関心
 - (A-1) 知識と教養
 - (1) 「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」および人間科学分野の選択科目を履修し、自然、環境、社会に関心を持ち、考察する態度を深めます。
 - (2) 国際コミュニケーション分野の選択科目を履修し、社会、他国の文化、人間などについての知識と関心の幅を広げます。
 - (A-2) 技術者倫理
 - (1) 「職業倫理」および「機械工学通論」を履修し、地球・地域の環境と資源の保護、製造物責任、知的財産権、情報公開などの概念と技術者との関わりを理解します。
 - (A-3) 地域・国際
 - (1) 「機械工学通論」、「キャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」、「職業倫理」を履修し、技術と地域社会のかかわりについての知見を習得します。
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識
 - (B-1) 数学
 - (1) 「微分」、「積分」、「線形代数」を履修し、機械工学の専門科目を理解し、実務に応用するための数学の基礎能力を身につけます。
 - (B-2) 物理学
 - (1) 「基礎物理学Ⅰ」、「基礎物理学Ⅱ」を履修し、機械工学の専門科目を理解し、実務に応用するための物理学の基礎能力を身につけます。
 - (B-3) 情報技術の基礎
 - (1) 「基礎機械情報工学」、「基礎情報科学」を履修し、コンピュータリテラシと基礎的なプログラミング法を習得します。
 - (C) コミュニケーション能力
 - (C-1) 日本語コミュニケーション
 - (1) 「機械工学実験Ⅰ、Ⅱ」を履修し、技術者としての実務的な報告書作成法を習得します。また、「機械工作実習」を履修し、技術的な発表と質疑応答を体得します。
 - (2) 「キャリアデザインⅢ」を履修し、就職指導を通じて、社会人として必要な基礎知識の再学習や、記述、口頭両面での自己表現、コミュニケーション能力を身につけます。
 - (3) 「卒業研究」を履修し、技術的な論文作成と口頭発表の仕方を習得します。
 - (C-2) 外国語コミュニケーション
 - (1) 「現代英語Ⅰ・Ⅱ」を履修し、基本的な英語の読解力を身に付けます。
 - (D) 機械工学の知識
 - (D-1) 材料力学・機械力学

- (1) 「材料力学」、「材料力学A」を履修し、材料力学に関する基礎知識を習得するとともに、「機械工学演習Ⅰ（材料力学分野）」を履修し、問題解決能力を身につけます。
 - (2) 「機械力学」、「機械力学A」を履修し、機械力学に関する基礎事項を習得するとともに、「機械工学演習Ⅱ（機械力学分野）」を履修し、問題解決能力を身につけます。
- (D-2) 熱力学・流体力学
- (1) 「熱力学」、「熱力学A」を履修し、熱力学に関する基礎知識を習得するとともに、「機械工学演習Ⅰ（熱力学分野）」を履修し、問題解決能力を身につけます。
 - (2) 「伝熱工学」を履修し、熱移動に関する基礎知識を習得します。
 - (3) 「流れ学」、「流れ学A」を履修し、流れに関する基礎知識を習得するとともに、「機械工学演習Ⅱ（流体力学分野）」を履修し、問題解決能力を身につけます。
- (D-3) 計測・制御
- (1) 「計測工学」を履修し、計測工学の基礎事項を習得します。
 - (2) 「制御工学」を履修し、制御システム設計の基礎事項を習得します。
 - (3) 「メカトロニクス基礎」、「プロジェクト実習」を履修し、メカトロニクスシステムの構成に関する基礎事項を習得します。
- (D-4) 材料・加工・設計製図
- (1) 「機械材料工学」を履修し、機械材料に関する基礎事項を習得します。
 - (2) 「エンジン解剖実習」を履修し、実用機械の構成や組み立て法を体験的に学習し、機械システムの設計・製造の基礎知識を習得します。
 - (3) 「工作学」、「機械加工学」を履修し、加工法の基礎事項を習得するとともに、「機械工作実習」を履修し、機械加工の作業を通じて機械装置製作に応用できる能力を身につけます。
 - (4) 「基礎設計工学」、「応用設計工学」、「基礎設計製図」、「CAD設計製図」、「機械設計技法」を履修し、機械設計に必要な基礎知識と製図法を修得するとともに、「プロジェクト実習」を履修し、設計・製作した製作物の動作、機能を評価し設計や製法が機械の性能に及ぼす影響を体得します。
- (E) エンジニアとしての実務遂行能力の素養
- (E-1) 機械システム
- (1) 「エンジン解剖実習」、「プロジェクト実習」を履修し、機械システムの仕組みと振る舞いの因果関係を体得するとともに、「プロジェクトⅠ」を履修し、問題解決にあたって機械システムの振る舞いを観察し、考察、評価できる能力を身につけます。
 - (2) 「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」を履修し、実験や研究で扱う装置・システムの動作、実験データを分析、考察、評価する能力を身につけます。
- (E-2) デザイン能力
- (1) 「プロジェクトⅠ」を履修し、機械装置と製造工程の開発・管理において必要となる、問題を明確にし、与えられた条件の下で最適な解決ができる方法を習得します。
 - (2) 「CAD設計製図」を履修し、機械装置と製造工程の開発、設計、管理を行う基礎的教養を身につけるとともに、「機械工作実習」、「プロジェクト実習」を履修し、実際の機械装置の設計・製作から完成にいたるプロセスを体験し、機械装置の開発に必要な基礎能力を身につけます。
 - (3) 「卒業研究」において、それぞれの課題の目標を理解し、目標の達成に必要なプロセスやシステムの改善、問題の解決のために調査、分析、創意工夫する姿勢を身につけます。
- (E-3) 情報技術の活用
- (1) 「CAD設計製図」を履修し、機械設計におけるCADの利用法を習得します。
 - (2) 「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」でコンピュータを用いたデータの集計・分析、レポートの作成など機械技術者の実務に利用できる能力を身につけます。
 - (3) 「プロジェクトⅡ・Ⅲ」、「卒業研究」において、調査、資料・データ整理、報告書作成、プレゼンテーションなどでのコンピュータ利用技術を総合的に身につけます。
- (E-4) 継続的学習
- (1) 「機械工学通論」を履修し、本学での学習、研究についての見通し、卒業後の機械技術者としてのイメージを形成します。
 - (2) 「プロジェクトⅡ・Ⅲ」、「卒業研究」を履修し、書籍、文献、インターネットなどでの情報収集を実践することにより、最新技術情報を収集できる能力を身につけます。
- (E-5) リソース管理

- (1) 「基礎設計製図」、「CAD設計製図」、「機械設計技法」、「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」を履修することにより、期限までに課題や報告書を提出する態度を身につけます。
 - (2) 「プロジェクトⅠ」、「機械工作実習」、「プロジェクト実習」において、小グループに分かれて問題解決に当たり、与えられた期限内に課題を完遂する姿勢を身につけます。
 - (3) 「卒業研究」において、課題の目標を理解し、目標を達成するために必要なリソースを管理し、主体的に課題を推し進める能力を身につけます。
- (E-6) チームワーク
- (1) 「エンジン解剖実習」を履修し、実習におけるグループワークの中で自らの役割と責任を理解できる能力を身につけます。
 - (2) 「プロジェクトⅠ」、「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「機械工作実習」、「プロジェクト実習」において、与えられた問題や課題の解決にチームであたり、自らの役割と責任を理解できる能力を身につけます。
 - (3) 「卒業研究」において、研究グループに分かれて与えられた課題の目標を理解し、自らの役割と責任を理解できる能力を身につけます。

自動車工学コースでは、さらに次の教育課程編成・実施の方針を定めています。

- (F) 自動車整備士としての実務遂行能力の素養
- (F-1) 自動車の構造・整備の知識
- (1) 自動車工学分野のコース必修科目を履修し、2級ガソリン自動車整備士相当の自動車の構造と整備に関する知識を習得します。
- (F-2) 高度化への対応
- (1) 「自動車工学」、「カーエレクトロニクス」、「自動車構造Ⅰ・Ⅱ」を履修し、高度化する自動車の技術の進展に対応し、自動車整備の実務に応用できる能力を身につけます。

□電気電子工学科カリキュラム・ポリシー

電気電子工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

- 1) 教育課程の骨格カリキュラムを、「導入転換科目」、「総合教養科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」で編成します。
- 2) 総合的な人間力を養成する教育を実施します。導入転換科目では、「工学への関心」の科目を通して電気電子工学分野への興味を喚起します。また、「キャリアデザイン」の科目を通して、大学生活から卒業後の生涯に亘り、自分の目標を達成させるための手段や方法を身に付ける教育を実施します。総合教養科目では「人間科学」、「国際コミュニケーション」、「体育科学」、「総合学際」の科目群からなる幅広い教養科目を通して、社会人としての一般教養と技術者としての倫理観を養います。
- 3) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します。工学基礎科目では、数学、物理学、化学、実験を含む「工学基礎」の科目群を通して、専門科目の学習に必要な工学の基礎力を養います。
- 4) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力をもたせる教育を実施します。高度な応用展開能力を養うため、「専門基礎」の科目を根幹とし、「電気エネルギーシステム系」、「情報・通信・メディア系」、「電子デバイス・システム制御系」の3つの系に分類して構成された科目群を、講義、演習、実験・実習および研修・研究を通して養成します。さらに各学年に配置した実験科目、さらには卒業研究によって編成される一連の実験・実習プログラムによってデザイン能力を修得させる教育を実施します。また、「原子力工学」の科目を通して、原子力に関する知識と技術を養います。
- 5) 地域社会との繋がりを重視した教育を実施します。先端技術工学、インターンシップあるいは学外研修を通じて、最新の科学技術や地域の地域課題について考える力を養います。
- 6) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します。総合教養科目を中心に、専門科目においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、グローバルな視野で物事を考えることができる素養を養成します。

□システム情報工学科カリキュラム・ポリシー

システム情報工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

- 1) 教育課程の骨格
カリキュラムを、「導入転換科目」、「総合教養科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」で編成します。
社会と接点のある豊かな人間性と総合的な判断力、ならびに社会の変化に対応できる柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。社会の発展に貢献する情報技術について国際的視野にたった教育を実施し、教養と倫理観を備え時代の変化に対応できる幅広い能力をもった技術者を養成します。
- 2) 地球的視野と地域社会への関心を身につけた人材を養成する教育を実施します。
地域社会への関心を喚起するための教育を実施し、情報技術者として地域社会の課題についてグローバルな視点から意見を表現できる技術者を養成します。情報技術が地域社会に及ぼす影響や情報技術者としての社会的責任を理解できるように、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、地域社会の課題について多面的な視点から課題を解決できる素養を養成します。
- 3) 専門分野の基礎知識をもち、社会の発展に貢献できる人材を養成する教育を実施します。
自然科学の基礎知識と工学の基礎知識、そして情報技術の基礎知識を習得する科目を充実させ、自然科学の基本的な性質や現象を理解し、工学や情報技術の基礎的な知識を課題の解決に活用できる人材を養成します。
- 4) コミュニケーション能力と国際交流の素養を身に付けた人材を養成する教育を実施します。
グループワークを通して口頭発表力を養うための教育を実施し、質問の意図を理解し、自分の意見を明確に応答できる人材を養成します。情報技術の専門用語を含む英語など外国語について、文章の内容を理解し、文章を作成できる素養をもった人材を養成します。
- 5) 情報技術の専門知識と応用展開能力によって、実践的な対応ができる技術者を養成する教育を実施します。
ソフトウェアの基礎知識を養い、その制作力を養う教育を実施することで、ソフトウェア設計の概念を理解し、仕様に基づいてプログラムを制作できる技術者を養成します。システムの基礎知識を養い、その実習科目において応用力を養う教育を実施することで、システムの数理的な概念を、システム構築に応用できる技術者を養成します。情報ネットワークの基礎知識を養い、構築力を養う教育を実施することで、仕様に基づいてネットワークを構築できる技術者を養成します。
- 6) 積極性と継続力をもち、融合された情報技術によって課題を解決できる技術者を養成する教育を実施します。
自発的で継続的な学習意欲を養うための教育を実施し、計画的に課題を解決できる技術者を養成します。デザイン能力を養う教育を実施し、複数解が存在する課題に対し、具体的な解決法を立案できる技術者を養成します。

□生命環境科学科カリキュラム・ポリシー

生命環境科学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

- 1) 教育課程の骨格
カリキュラムを、「導入転換科目」、「総合教養科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」で編成します。
- 2) 総合的な人間力を養成する教育を実施します
総合教養科目においては、学科を問わないリベラルアーツを展開し多面的に物事を考える素養を養います。また導入転換科目においては、社会と接点のある教育を実施し、キャリアデザイン科目を充実させます。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。専門科目においても、演習、実習、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、並びに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。
- 3) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します
学科の学問に必要な「工学基礎科目」を配置し、専門科目を理解するための自然科学の基礎を養

います。さらに、専門科目の基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の実践的学習を取り入れた授業などを展開し、これにより、専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

- 4) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力をもたせる教育を実施します。応用展開力を養うために、生命科学・食品科学・環境化学の基礎科目および各専門科目を配置します。各分野の知識は演習および実験を通して理解力を深め、他分野の知識を応用展開する能力を養います。修得した複数分野の知識やスキルを統合し、決められた制約の下で応用展開すると共に論理的な思考力と表現力を育成するため、「生命環境科学セミナー」および「卒業研究」を必修とします。
- 5) 人間社会と地球環境の関連を理解し発展させる力を養成する教育を実施します。環境調和型社会の実現に向け、人間活動による環境への影響を理解できる教育を展開します。これにより、様々な知識・技術を活用し問題を解決する素養を養成します。

□土木建築工学科カリキュラム・ポリシー

土木建築工学科では、学科のディプロマ・ポリシーに掲げる学科の学習・教育目標に適う人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

<教育課程編成の方針>

- 1) 4年間一貫教育：調和と連携のとれた教育を目指し、導入転換科目、総合教養科目、工学基礎科目、リメディアル科目、そして専門基礎科目、土木専門科目、建築専門科目、専門応用科目の8区分の科目群で構成されています。
- 2) 導入転換科目：高校教育から大学教育への円滑な移行と将来のキャリアプランニング、さらに土木建築工学への興味を喚起するための科目を配置します。
- 3) 総合教養科目：人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際 of 4分野にわたる教養科目を配置します。
- 4) 工学基礎科目：専門科目の学習に必要な数学、自然科学、情報、実験に係わる科目群を配置します。
- 5) 専門基礎科目：土木工学および建築工学を学ぶ上で必要となる、構造力学、測量学、計画学、製図、地盤工学などの共通の基礎科目を配置します。
- 6) 土木専門科目：土木工学に関する基礎的な知識と学力を修得し、それらを応用・展開できる能力を修得することを目的として、土木基礎、土木応用の各分野から構成される科目を配置します。
- 7) 建築専門科目：建築工学に関する基礎的な知識と学力を修得し、それらを応用・展開できる能力を修得することを目的として、建築設計、建築計画・環境・設備、建築構造・生産、建築応用、建築法規の各分野から構成される科目を配置します。
- 8) 専門応用科目：土木建築工学における応用・実用的な能力を深めることを目的として、インターンシップ、学外研修、総合デザインなどや卒業研究を配置した専門応用分野の科目群、さらに、海洋学の基礎、海洋土木などを配置した海洋学分野の科目群も配置します。
- 9) 特別専攻科目：少人数教育を通して土木建築工学における高度な応用・展開能力を修得することを目的として、解析、特別専攻プロジェクト、特別専攻ゼミナールの科目群も配置します。

<教育実施の方針>

- 1) 履修コースと指導：将来の進路や取得可能な資格の希望に応じた履修コースが設けられ、2年進級時に履修コースを選択します。各履修コースには、その人材育成像に応じた履修要件が設定されています。3年進級前までは、コースの変更ができます。原則として3年進級以降はコース変更はできません。また、学年担任が学生ひとり一人に対して適切な履修計画の立案および学修の指導を行います。
- 2) 実験・実習などの実践的教育：講義で学んだ知識を実践して理解をさらに深め、かつ応用力を養うこと、また新たな学習課題を自ら発見することを目的としています。
- 3) 設計・演習教育：設計および演習教育を特に重視します。構造（建築）物を実際に設計し、かつ表現、建設できることは、土木・建築に対する理解を深めるとともに、デザイン能力や多様な実務を処理する能力の養成に役立ちます。
- 4) 視聴覚・情報機器の活用：本学科では、ITルームや自習室を整備し、大学での授業・教育に加えて、自宅での自律的な学習・利用を促進します。また、通常の授業においても視聴覚機器を積極

的に活用し、理解度の向上に努めます。

- 5) 卒業研究：4年間の学習・教育の総仕上げとして位置づけられています。本科目では、より総合的な学習や特定領域における研究活動を通じて、土木建築工学に関する 応用展開能力を育成し、さらには学術・技術の発展に貢献することが求められます。

■感性デザイン学部カリキュラム・ポリシー

感性デザイン学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

- 1) 教育課程の骨格
カリキュラムを、「導入転換科目」、「総合教養科目」、「専門科目」で編成します。
- 2) 総合的な人間力を養成する教育を実施します
総合教養科目においては、人間環境や社会に対して多面的な視野から物事を捉え、総合的な判断力を養うための科目と、コミュニケーションスキルを獲得するための科目を編成します。また大学における学修計画や達成度評価、職業指導等を通じて将来のキャリア形成を支援するためのキャリアデザイン科目を導入転換科目として配置します。専門科目においても、PBL、アクティブ・ラーニングなどを取り入れた科目を編成します。これにより、豊かな人間性と総合的な判断力、並びに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。
- 3) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します
感性デザイン学部の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門基礎と演習を組み合わせ、専門基礎原理を繰り返し学習できるような授業を展開します。これにより、専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。
- 4) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力をもたせる教育を実施します
発想力、発表力、自ら問題を解決する力などの実践的な力を養成するため、少人数ゼミナール、演習・実習科目を重点的に編成します。授業の中では多くのプレゼンテーションを実施し、自ら考え纏めたことを発表、表現する授業を展開します。また身につけた専門知識やスキルを統合し、問題の解決と新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業制作・論文」を必修とします。
- 5) 地域社会との繋がりを重視した教育を実施します
公共の問題や地域社会が抱える課題を発見し、それを解決に導く力を養成するために、デザイン手法を学ぶ教育を実施、また地域と連携したPBLやアクティブ・ラーニング教育を実施します。これにより、地域社会への関心をもって物事を考えることができる能力も養成します。
- 6) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します
グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成するために、総合教養科目、並びに学部の専門科目における複数の科目でグローバルな視点での授業を展開します。

□創生デザイン学科カリキュラム・ポリシー

創生デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

- 1) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します
創生デザイン学科各コースの専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。また、専門基礎科目と演習・実習科目を有機的に連動させ、専門基礎原理を演習・実習の場で確認し繰り返し学習できるように授業を展開します。これにより、専門分野の基礎原理を十分に理解・修得させる教育を実施します。
- 2) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力をもたせる教育を実施します
発想力、発表力、自ら問題を解決する力などの実践的な力を養成するため、初年次から少人数ゼミナール、演習・実習科目を重点的に編成します。各コースの主幹演習をそれぞれの学年に配置し、段階的に学びが深化するように配置します。また、コミュニケーションスキルを獲得するために、授業にはグループワークや協働活動を取り入れ、他者の考えに耳を傾け、さまざまな情報や多様な立場を受容する力、プレゼンテーションを通して自ら考え纏めたことを発表、表現する力を養う授業を展開します。さらに修得した専門知識やスキルを統合し、問題の解決と新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業制作・論文」を必修とします。
- 3) 地域社会との繋がりを重視した教育を実施します

公共的問題や地域社会が抱える課題を発見し、それを解決に導く力を養成するために、デザイン手法を学ぶ教育を実施します。また、地域と連携したPBLやアクティブ・ラーニング教育を実施します。これにより、社会の変化に対応できる柔軟な思考力、地域社会への関心をもってデザイン活動に取り組む姿勢、具体的なデザイン実践の知を社会に還元できる能力を養成します。

- 4) グローカルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します
グローバルな視野をローカルな諸問題解決に活かす力、多様性を踏まえてデザイン活動を進める力を養成するための授業を複数の科目で展開します。

■八戸工業大学アドミッション・ポリシー

八戸工業大学は、建学の精神である「正己以格物」（己を正し以て物に格る）に基づいた自己思考能力を育むカリキュラムにより、基礎知識や専門知識だけにとどまらず、将来的に地域を牽引していくことができる総合力を備えた次世代のリーダーにふさわしい人材を養成しています。また、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げており、高度な専門知識を備え高度な応用展開力をもつとともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ技術者の育成を目指しています。

これらを実現するため、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有しており、本学が進める教育研究活動に強い関心があり、さらに自らを向上させようとする意欲を持つ人を、多様な選抜制度により受け入れます。

本学の入学者選抜では、志願者の学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を把握し、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性等を判断するため、入試形態ごとに個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、小論文、面接などを組み合わせ、志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価します。

■入試形態別アドミッション・ポリシー

●総合型選抜試験

工学部においては、

- ①「自然環境に配慮した科学技術」に関心のある人、
- ②部活動やボランティア活動など、幅広い学生生活を送りたいと望む人、
- ③個性が輝き、人と異なる発想力を持っている人、
- ④ふるさとを愛し、地域の発展に貢献したいと考えている人、
- ⑤本学の「工学部」で学びたいという強い意志を持っている人

を対象とします。

感性デザイン学部においては、

- ①公共的問題や地域社会への関心を持ち、デザイン活動を楽しめる人、
- ②求められているものが何かを理解できる感性豊かな人、
- ③これまでの常識にとらわれない発想力のある人、
- ④議論に参加し、議論を活性化できるコミュニケーション能力のある人、
- ⑤本学の「感性デザイン学部」で学びたいという強い意志を持っている人

を対象とします。

両学部とも、面接・調査書・本人が記載するエントリーシート、授業体験のなかで作成する小論文（工学部）、デッサンまたはマインドマップの作成（感性デザイン学部）により、本学や志望学部の受け入れ方針、求める人材像との整合性を総合的かつ多面的に評価・判定します。

●学校推薦型選抜試験（指定校制）

本学での教育を通じてより深い専門的知識と技術を修得したいという目標を持ち、人間性豊かな人を対象とします。

所定の成績を修め高等学校長から推薦され本学を専願する志願者について行なう面接および口頭試問、調査書・高等学校長からの推薦書・本人が記載する志望理由書により、本学や志望学部の受け入れ方針、求める人材像との整合性を総合的かつ多面的に評価・判定します。

●学校推薦型選抜試験（公募制）

本学での教育を通じて得られるものの中に目標を見出すことができ、志望学科についての理解と目的意識を持っている人を対象とします。

所定の成績を修め高等学校長から推薦された志願者について行なう面接および口頭試問、調査書・高等学校長からの推薦書・本人が記載する志望理由書により、本学や志望学部の受け入れ方針、求める人材像との整合性を総合的かつ多面的に評価・判定します。他大学との併願が可能な学校推薦型選抜試験です。

●一般選抜試験

工学部においては、本学の教育を通じて工学の基礎原理を踏まえた応用展開能力の修得を目標とする

人を対象とします。選抜試験では、「数学」と「理科」の2教科、「国語」または「英語」のいずれか1教科選択、計3教科の得点で知識・技能、特に工学を学ぶための基礎学力を、調査書記載の総合的な学習の時間などにおける生徒の探求的な学習の成果、学内での活動、学外での活動で主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を、「数学」の試験における記述式問題の解答で論理的な思考力・判断力・表現力等を評価します。

感性デザイン学部においては、本学での教育を通じてデザイン学の基礎を踏まえた応用展開能力の修得を目標とする人を対象とします。選抜試験では、「国語」、「数学」、「英語」の中から2教科と「小論文」または「鉛筆デッサン」のいずれか1教科選択、計3教科の得点で知識・技能、特にデザイン学を学ぶための基礎学力を、調査書記載の総合的な学習の時間などにおける生徒の探求的な学習の成果、学内での活動、学外での活動で主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を、「国語」または「数学」の試験における記述式問題の解答で論理的な思考力・判断力・表現力等を評価します。

●大学入学共通テスト利用選抜試験

工学部においては、社会に対して広い視野を持ち、本学での教育を通じて工学の基礎原理を踏まえた応用展開能力の修得を目標とする人を対象とします。選抜試験では、「数学」1教科1科目を含む大学入学共通テスト3教科3科目の得点で工学を学ぶための基礎学力および思考力、判断力、表現力等を、調査書記載の総合的な学習の時間などにおける生徒の探求的な学習の成果、学内での活動、学外での活動で主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価します。

感性デザイン学部においては、本学での教育を通じてデザイン学の基礎を踏まえた応用展開能力の修得を目標とする人を対象とします。選抜試験では、「国語」、「数学」、「外国語」の中の2教科2科目を含む大学入学共通テスト3教科3科目の得点でデザイン学を学ぶための基礎学力および思考力、判断力、表現力等を、調査書記載の総合的な学習の時間などにおける生徒の探求的な学習の成果、学内での活動、学外での活動で主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価します。

●社会人特別選抜試験

入学年時満23歳以上で、1年以上の就労経験が有り、本学での教育を通じてより深い専門的知識と技術を修得したいという目標を持ち、人間性豊かな人を対象とします。

工学部においては、

- ①「自然環境に配慮した科学技術」に関心のある人、
- ②部活動やボランティア活動など、幅広い学生生活を送りたいと望む人、
- ③個性が輝き、人と異なる発想力を持っている人、
- ④ふるさとを愛し、地域の発展に貢献したいと考えている人、
- ⑤本学の「工学部」で学びたいという強い意志を持っている人

を対象とします。

感性デザイン学部においては、

- ①公共的問題や地域社会への関心を持ち、デザイン活動を楽しめる人、
- ②求められているものが何かを理解できる感性豊かな人、
- ③これまでの常識にとらわれない発想力のある人、
- ④議論に参加し、議論を活性化できるコミュニケーション能力のある人、
- ⑤本学の「感性デザイン学部」で学びたいという強い意志を持っている人

を対象とします。

両学部とも、面接・調査書・本人が記載するエントリーシート、授業体験のなかで作成する小論文(工学部)、デッサンまたはマインドマップの作成(感性デザイン学部)により、本学や志望学部の受け入れ方針、求める人材像との整合性を総合的かつ多面的に評価・判定します。

●外国人留学生特別選抜試験

日本国籍を有しない人で、本学での教育を通じてより深い専門的知識と技術を修得したいという目標を持ち、人間性豊かな人を対象とします。

工学部においては、

- ①「自然環境に配慮した科学技術」に関心のある人、
- ②部活動やボランティア活動など、幅広い学生生活を送りたいと望む人、
- ③個性が輝き、人と異なる発想力を持っている人、

- ④ふるさとを愛し、地域の発展に貢献したいと考えている人、
 - ⑤本学の「工学部」で学びたいという強い意志を持っている人
- を対象とします。

感性デザイン学部においては、

- ①公共的問題や地域社会への関心を持ち、デザイン活動を楽しめる人、
 - ②求められているものが何かを理解できる感性豊かな人、
 - ③これまでの常識にとらわれない発想力のある人、
 - ④議論に参加し、議論を活性化できるコミュニケーション能力のある人、
 - ⑤本学の「感性デザイン学部」で学びたいという強い意志を持っている人
- を対象とします。

両学部とも、面接・調査書・本人が記載するエントリーシート、授業体験のなかで作成する小論文(工学部)、デッサンまたはマインドマップの作成(感性デザイン学部)により、本学や志望学部の受け入れ方針、求める人材像との整合性を総合的かつ多面的に評価・判定します。

●帰国生特別選抜試験

日本国籍を有し、外国の学校に在学した人で、本学での教育を通じてより深い専門的知識と技術を修得したいという目標を持ち、人間性豊かな人を対象とします。

工学部においては、

- ①「自然環境に配慮した科学技術」に関心のある人、
 - ②部活動やボランティア活動など、幅広い学生生活を送りたいと望む人、
 - ③個性が輝き、人と異なる発想力を持っている人、
 - ④ふるさとを愛し、地域の発展に貢献したいと考えている人、
 - ⑤本学の「工学部」で学びたいという強い意志を持っている人
- を対象とします。

感性デザイン学部においては、

- ①公共的問題や地域社会への関心を持ち、デザイン活動を楽しめる人、
 - ②求められているものが何かを理解できる感性豊かな人、
 - ③これまでの常識にとらわれない発想力のある人、
 - ④議論に参加し、議論を活性化できるコミュニケーション能力のある人、
 - ⑤本学の「感性デザイン学部」で学びたいという強い意志を持っている人
- を対象とします。

両学部とも、面接・調査書・本人が記載するエントリーシート、授業体験のなかで作成する小論文(工学部)、デッサンまたはマインドマップの作成(感性デザイン学部)により、本学や志望学部の受け入れ方針、求める人材像との整合性を総合的かつ多面的に評価・判定します。

■工学部アドミッション・ポリシー

工学部では、豊かな人間性、総合的な判断力を基盤とする工学の素養をもった人材、社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材、工学の基礎原理を踏まえ高度な応用展開能力をもった人材、地域社会への関心、そしてグローバルな視野をもった人材を育成しています。

これらを実現するため、工学部では、本学が進める工学に関する教育研究活動に強い関心があり、本学において自らを向上させようとする意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有している人を、多様な選抜制度により受け入れます。

工学部の入学者選抜では、理数系科目を中心に学力の三要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」)を把握するとともに、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性等を判断するため、入試形態別に個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、小論文、面接などを組み合わせて志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価します。

□機械工学科アドミッション・ポリシー

機械工学は、豊かな社会に欠かせない様々な機械や機械要素の設計・製作とその利用に関わる学問です。機械工学科では、機械工学に関する幅広い知識、技術者倫理、エンジニアリング・デザイン能力、情報技術およびコミュニケーション能力と国際的視野を有し、多様化した社会ニーズに対応して地域や

社会で活躍できる人材を育成します。機械工学を学ぶことに関心があり、機械工学に関する知識を活用して地域や社会で活躍したいという目標を持つ人を受け入れます。

□電気電子工学科アドミッション・ポリシー

電気電子工学科では、電気電子工学の深い知識と幅広い教養、俯瞰的視野ならびに倫理観を有し、豊かな人間性と総合的な判断力、問題解決・応用展開能力、構想力、自己表現力、協働性を備え、地域社会への関心と国際的視野を持った人材を育成します。

したがって、学科の目的に強い関心があり、これらの能力を身につけて地域や社会で活躍したいという目標を持ちながら主体的に取り組む人を受け入れます。

□システム情報工学科アドミッション・ポリシー

パソコンや携帯端末、家電製品や自動車、インターネットからゲーム機にいたるまで、私たちの身の回りはICT（情報通信技術）が支えています。そして、ソフトウェアおよびコンテンツ産業は成長著しい分野です。システム情報工学科は、将来こうした情報社会を築く人が、興味を持って学んで行ける場です。これからの情報社会を支えるエンジニアとして活躍できる、高い倫理観、工学の基礎学力と情報技術に関わる専門知識、グローバルな視野、コミュニケーション能力を身につけ、異なる分野の人とも協調して課題解決にあたる人材を育成します。

コンピュータや情報機器に興味を持ち、ソフトウェアの制作や利用にたずさわる仕事に関心があって、高い倫理観をもって情報社会に貢献することを志し、情報技術の修得に真摯に取り組んで自ら学ぶ努力を惜しまない人を受け入れます。

□生命環境科学科アドミッション・ポリシー

生命環境科学科では、環境化学や生命科学の知識・技術を持ち、自然科学的な見方、ものの考え方ができる人材を育成します。

そのために、学科の教育研究目的の「持続可能で安全・安心な社会を目指した環境調和工学とバイオテクノロジーの応用」に関心があり、将来、環境負荷の少ない工業生産や安全な食糧生産などの分野で活躍することを希望し、積極的な学習意欲を有する人を受け入れます。

□土木建築工学科アドミッション・ポリシー

土木建築工学科では、社会基盤と居住空間の整備、自然環境と調和した地域社会の発展、地域・文化・時代により変化する建設分野への要請および諸課題に対応するため、必要な科学と土木・建築工学技術の知識、幅広い教養と倫理観、コミュニケーション能力、生涯自己学習能力および問題解決・応用展開能力をもった技術者を養成すると共に、土木工学および建築工学に関する研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献できる人材を育成します。

したがって、学科の目的に強い関心があり、これらの能力を身につけて社会の発展に貢献したいという強い意欲を持って取り組む人、および、資格取得に関心のある人を受け入れます。

■感性デザイン学部アドミッション・ポリシー

感性デザイン学部では、豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とするデザインの素養をもった人材、社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材、デザインの諸原理を踏まえ、応用展開能力をもった人材、および公共の問題や地域社会へ関心をもつとともにグローバルな視野をもったデザインを活かせる人材の育成を目指しています。

これらを実現するため、感性デザイン学部では、本学が進める感性デザイン教育研究活動に強い関心があり、本学部において自らを向上させようとする意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有している人を受け入れます。

感性デザイン学部の入学者選抜では、学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を把握するとともに、本学部の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性等を判断するため、入試形態別に個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、小論文、面接などを組み合わせて志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価します。

□創生デザイン学科アドミッション・ポリシー

創生デザイン学科では、多様な人間性・文化を理解し、ローカルとグローバルの広い視点から新しい価値を生み出せるグローバル人材、建設的な人間関係を形成するコミュニケーション能力を有し、新たなものを作り上げる実現力や実行力を備えた人材、並びに、実社会において自己やコミュニティの課題を見出し、解決のために状況に応じたデザイン手法を展開できる人材を育成します。

したがって、本学科では、大学の授業の内外で、自らの興味・関心を活かして幅広く学び、その過程で見出される諸問題を関連付ける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追及するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする姿勢を持っている人を受け入れます。